

# 病害虫情報(第5号)8月予報

令和2年7月31日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333  
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ】
- II 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 9

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和2年7月27日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

生育:6月上旬植 並～やや遅、6月中旬植 並～やや遅 (生産技術部:はるみ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病 (穂いもち)	並	△	(予・治) コラトップ粒剤5 [出穂30日前～5日前,2回] 3～4kg/10a (予・治) ブラシフロアブル [7日,2回] 1,000倍 等 ◆ ブラシンを飼料用米栽培に使用する場合は、欄外記載(※)の対策に留意すること。
紋枯病	並	○	(予・治) リンバー粒剤 [30日,2回] 3～4kg/10a (予・治) モンカット粒剤 [出穂30～10日前,14日,3回] 湛水散布3～4kg/10a 等 ◆ 防除適期は出穂期まで。
斑点米カメムシ類	並	△	キラップ粒剤 [14日,2回] カメムシ類、ウンカ類:湛水散布 3kg/10a 等 アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a
ヒメビウンカ	やや少	△	◆ キラップはカメムシ類対策を主として使用する。 ◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底するが、水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。粒剤を使用する場合の防除適期は出穂から出穂7日後まで。液剤・粉剤を使用する場合は出穂7～10日後まで。
セジロウンカ	やや多	△	
ツマグロヨコバイ	並	△	
ニカメイチュウ	並	△	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ※飼料用米栽培において農薬を使用する場合は、次の対策に留意すること。
- ①飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降)に農薬の散布を行う場合には、家畜へは糞糺りをして玄米で給餌すること。
  - ②籾米のまま、もしくは籾殻を含めて給餌する場合は、出穂以降の農薬散布は控えること。

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 7月の降水量が多いため、できるだけ速やかに防除する。
かいよう病 (中晩柑類)	やや多	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 みかん:[7日,5回] 1,000倍 みかんを除くかんきつ:[45日,5回] 1,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 傷口から感染するため、ミカンハモグリガの防除を行い、台風通過が予想される前には予防散布を行う。
ミカンハダニ	並	○	ダブルフェースフロアブル [前日,1回] 2,000~3,000倍 等 ☞ ダブルフェースフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。
ミカンサビダニ	—	○	
チャノキイロアザミウマ	並	△	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回]1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】 生育:並(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予・治) オーシャイン水和剤 [前日,5回] 3,000倍 等
シンクイムシ類	並	○	アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 スカウトフロアブル [前日,5回] シンクイムシ類:2,000倍、カメムシ類:1,500倍
カメムシ類	並	○	フェニックスフロアブル[前日,2回] シンクイムシ類:4,000倍 等 ◆ ナシヒメシンクイの第4世代の幼虫を対象とする防除適期は平年よりやや早いと予想される(伊勢原、大井)。 ◆ 山際の園ではカメムシが飛来する可能性があるので注意する。発生が見られたらただちに防除する。
ハダニ類	並	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

## 【ブドウ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予) Zボルドー[-,-] 500~800倍 + クレフノン[-,-] 100倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予・治) アミスター10フロアブル [7日,3回] 1,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [前日,6回] 1,000~1,500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [14日,3回] 1,000~1,500倍 等 ◆ ベルクートは西村早生では薬害を生じるので使用しない。
カキノヘタムシガ	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 アタブロンSC [14日,3回]
カメムシ類	並	○	カキノヘタムシガ:4,000倍 等 ◆ カキノヘタムシガの平年の防除適期は8月上旬である。 ◆ カメムシ類はナシの項を参照。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	【夏整枝・浅刈り更新後の2回目の防除(前回防除の2週間後)】 (予・治) オンリーワンフロアブル [7日,2回]
輪斑病・ 新梢枯死症	—	○	炭疽病:2,000~3,000倍、新梢枯死症:2,000倍 (予・治) ストロビーフロアブル [10日,3回] 2,000~3,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	【夏整枝・浅刈り更新後の2回目の防除(前回防除の2週間後)】 ロディー乳剤 [7日,1回]
チャノミドリヒメ ヨコバイ	やや多	○	チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ:1,000~2,000倍
チャノホソガ	やや多	○	チャハマキ:1,000倍 カスケード乳剤 [7日,2回]4,000倍 等
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモン ハマキ	やや多	○	◆ 夏整枝・浅刈り更新後は2回防除を推奨している。
カンザワハダニ	やや少	○	【8月中下旬】 ダニゲッターフロアブル [7日,1回] 2,000倍 ミルベノック乳剤 [7日,1回] 1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

……………神奈川県農業技術センター

## 【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	<p>【育苗期:粒剤施用】</p> <p>ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1~2g/株</p> <p>アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株</p> <p>【育苗期後半~定植時:粒剤施用または灌注】</p> <p>プリロソソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 又は、ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株</p> <p>【育苗期:散布】</p> <p>ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日,3回] タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む) アザミウマ類:1,000~2,000倍</p> <p>☞ ファインセーブはミニトマトに登録がないので注意する。</p> <p>【定植時:土壌施用】</p> <p>モスピラン粒剤 [定植前日~定植当日,1回:株元散布] コナジラミ類:1g/株</p> <p>【定植後:散布】</p> <p>ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:1,000~2,000倍</p> <p>◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>GSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 育苗期のウイルス病感染防止策を徹底するとともに、育苗施設内外の除草を徹底する。 ◆ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベットにトンネル掛けする。</p>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	GSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
GSNV(トマト茎えそ病)															
アザミウマ類	—	○													

等

等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

## 【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,一] うどんこ病:1,000～2,000倍										
うどんこ病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] べと病:600～800倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病:1,000～2,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] うどんこ病:2,000倍 等 ◆ 育苗期の殺菌剤散布は、病害予防の効果が高い。但し、高温による薬害に注意。										
アブラムシ類	並	○	【育苗期:株元施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1～2g/株										
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツ コナジラミ	—	○	【育苗期後半～定植時:粒剤施用または灌注】 プリロツ粒剤 [育苗期後半～定植時,1回:株元散布] 2g/株 又は、ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] コナジラミ類、アザミウマ類: 原液25mlを10～20Lに希釈/400株 アブラムシ類:原液25mlを2～20Lに希釈/400株										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	多	○	【定植時:粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:[植穴又は株元土壌混和] 1～2g/株 コナジラミ類:[植穴土壌混和] 2g/株 【育苗期～定植後:散布】 ダントツ水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ :2,000～4,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ:1,500倍 等 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
			◆ 育苗施設内外、本圃内外の雑草防除を徹底する。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

…………… 神奈川県農業技術センター

## 【イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	<p><b>【育苗期】</b>                      (予) タフパール [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍                      (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍                      (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍                      (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍                      (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前まで, 3回] 1,000倍                      ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p><b>【育苗期: 土壌灌注】</b>                      (予) フロンサイドSC [育苗期, 1回: 灌注] 1,000倍、50ml/株 等</p> <p>◆ 発病した苗の治療は期待できない。発病株とその隣接株を速やかに処分する。                      ◆ 薬剤防除は10～14日間隔でローテーション散布し、発病が見られたら4～7日間隔に短縮する。</p>
うどんこ病	—	○	<p><b>【育苗期】</b>                      (予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍                      (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍                      (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍                      (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000倍                      (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 等</p> <p>◆ うどんこ病は育苗期からの防除が重要。特に7月に発生が見られた場合は、高温期の防除を徹底する。                      ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は生存している。                      ◆ 本圃に発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。</p>
チャノホコリダニ シクラメンホコリダニ	—	○	サンマイトフロアブル [収穫開始3日前, 1回] 1,000～1,500倍 等
ハスモンヨトウ	多	○	トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日, 2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### タフパールとの散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ セイビアー、サンヨール、カリグリーン、スコア: 3日以上、アントラコール、ゲッター: 7日以上、ベルコート水和剤: 10日以上、サンマイト、トルネードフロアブル、アファーム: 混用事例あり

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

## 【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや多	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤[前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル[前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 等
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	多 並	○ ○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 2,500～5,000倍 ディアナSC[前日,2回] 2,500～5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日,3回] 1,000～2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 等
オオタバコガ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] 1,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 等
ハダニ類	並	○	スターマイトフロアブル [前日,1回] 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
チャノホコリダニ	並	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑病	—	○	(予) ダコニール1000 [14日,3回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤[14日,3回] 黒斑病:1,000～1,500倍 (予・治) ラリー水和剤[7日,3回] さび病:2,000倍 等
さび病	—	○	◆ 肥料不足や窒素過多にすると発病しやすい。
ネギアザミウマ	やや少	○	スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] アザミウマ類:2,500～5,000倍、シロイチモジヨトウ:5,000倍
シロイチモジヨトウ	—	△	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] アザミウマ類:2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

## 【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予) ダコニール1000 [14日, 2回] 1,000倍 等 ◆育苗期から発生に注意。 ◆ Zボルドー:薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。
ハイマダラノメイガ	—	○	<b>【苗地床灌注】</b> ジュリボフロアブル [は種時~育苗期後半, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ :1,000倍(苗地床1㎡あたり2L) ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 <b>【セル成型育苗トレイ 又は ペーパーポット灌注】</b> ジュリボフロアブル [育苗期後半~定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ:200倍(セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類:400倍(セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ <u>ベリマークSCはプリロツソ粒剤と同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</u> <b>【育苗期後半又は定植時:粒剤施用】</b> ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 又は、[定植時, 1回:植穴処理土壌混和] 1~2g/株  ネギアザミウマ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 プリロツソ粒剤 [育苗期後半~定植時, 1回:株元散布] ハイマダラノメイガ:1g/株、アザミウマ類:2g/株 ☞ <u>プリロツソ粒剤はベリマークSCと同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</u> <b>【育苗期~定植後:散布】</b> プリンスフロアブル [14日, 2回] ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、ネギアザミウマ:2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 3回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ:1,000~2,000倍 グレーシア乳剤 [7日, 2回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アザミウマ類:2,000~3,000倍 等
ハスモンヨトウ	多	○	
オオタバコガ	並	○	
ネギアザミウマ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略



# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 8月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部7月22日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	30%	30%	40%

\*7月30日発表1か月予報による。

### (2) 8月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	いもち病 (穂いもち)	少	並	1) 巡回調査では、葉いもちの発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多い予報。(－)
	紋枯病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寺田縄)における生育は、草丈は過去6年平均よりやや短く、分けつ数は過去6年平均よりやや少なく、葉色は過去6年平均よりやや濃い。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多い予報。(±)
	斑点米カメムシ類	少	並	1) 予察灯の誘殺数は、平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ヒメビウンカ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 予察灯の誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	セジロウンカ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発生が平年並。(±) 3) 予察灯の誘殺数は、平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	トビイロウンカ	少	並	1) 予察灯への誘殺は見られず、平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 予察灯の誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ニカメイチュウ (ニカメイガ)	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、被害は見られず発生が平年並。(±) 3) 予察灯とフェロモントラップの越冬世代の誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	コブノメイガ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、被害は見られず発生が平年並。(±) 3) 予察灯への誘殺は見られず、平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
カンキツ	黒点病 (果実)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉及び果実での発生が平年並。(±) 3) 7月の降水量が平年よりも多い。(＋) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	かいよう病 (果実)	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉及び果実での発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
ナシ	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナシ	シンクイムシ類	—	並	1) フェロモントラップへの第2世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)、大井ではやや多く(+)、伊勢原ではやや少ない(-)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年より少ない。(—) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(—)
カキ	うどんこ病	—	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	少	並	1) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)では平年より少ない。(—) 2) 予察灯への誘殺数は、山北、県予察ほ(上吉沢)、県予察ほ(根府川)では平年より少ない。(—) 3) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は、幼虫がやや少なく(—)、成虫が平年並。(±) 4) ヒノキ球果上の吸汁痕(口針鞘)数は平年並。(±) 5) 自然環境保全センターの調査から、ヒノキの球果量は例年よりやや少ないため、新世代成虫の発生はやや少ないと予測される。(—) 6) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
チャ	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(—) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)の叩き出し調査では、落下虫数が平年より少ない。(—) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(—) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)の叩き出し調査では、落下虫数が平年より多い。(+) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (—):少発要因

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	ハマキムシ類	少	やや多	1) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より多い。(+) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年より少なく(-)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年よりやや多い(+) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず発生が平年並。(±) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
	チャノホソガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(-) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年より少なく、県予察ほ(寸沢嵐)で平年より多い。(+) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(-) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
	カンザワハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年より少ない。(-) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(-) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず発生が平年より少ない。(-) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
抑制トマト	タバココナジラミ	—	やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) ナスの巡回調査では、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
抑制キュウリ	アブラムシ類	—	並	1) 巡回調査では、ナス及び露地トマトでの発生は平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや少ない。(-) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ	—	多	1) 巡回調査では、ナスでの発生が平年より多い。(+) 2) 青色粘着板調査では、捕獲虫数が平塚市で平年より多く(+)、大磯町で過去6年平均よりやや多い(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
ナス	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 青色粘着板調査では、捕獲虫数が平塚市で平年より多く(+)、大磯町で過去6年平均よりやや多い(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)

※「発生量」……程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…… (+):多発要因 (-):少発要因

# 病害虫情報

(令和2年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
ネギ	ネギアザミウマ	中	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
露地野菜全般	ハスモンヨトウ	－	多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より多い。(＋) 2) 県予察ほでのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年よりやや多く(＋)、三浦では平年より多い(＋)。 3) 巡回調査では、露地トマト、ナスともに被害は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	オオタバコガ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原では平年より少なく(－)、横浜では平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より少ない(－)。 3) 巡回調査では、露地トマトでの発生が平年並(±)、ナスでの寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

## ★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

## ★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回